神戸大学大学院
国際文化学研究科

Graduate School of Intercultural Studies, Kobe University

グローバル社会のフロントランナーを育成する

2019-2020

神戸から始まる
新しい国際文化研究

吉野弘「夕焼け」という詩があります。舞台は満員電車、席に座っているのは若者と娘。娘の前に一人の「としより」が立つ。娘はしばらくためらった後、席を譲る。老人は礼も言わず次の駅で降りていく。また別の「としより」が現れる。今度も娘は逡巡した後、席を譲る。老人は次の駅で礼を述べて降りていく。また別の老人が現れる。今度は娘は席を立たない。うつむいたまま身体をこわばらせている。詩人はそこで電車を降り、「われにもあらず受難者」となった娘が「やさしい心に責められながら」どこまで行けるだろうか、「下唇を噛んで／つらい気持ちで／美しい夕焼けも見ないで」と想像します。

あなたならこの詩をどのように読むでしょうか。この詩の誰に自分を重ねますか。席を立つのがなぜこの娘でなければならないのか。若者は何をしているのか。「としより」が次々と目の前に立つことに象徴される娘の聖性と、聖人になりきれない人間的な葛藤。席を譲られなかった三人目の老人は娘のことをどう思っているのか。娘を見る詩人は立っていたのか座っていたのか。「詩人」の役割とは何か――観察者なのか、つらい気持ちでいる娘（人間）と美しい夕焼け（超越的自然）を結びつけたいと願う媒介者なのか。そもそも席を譲る譲らないということが他の国で詩の題材となりうるか……。車輛というごく狭い空間の中ですら複数の関係性が交錯し、それを読みとる視点と文脈はいくつもありえます。

ローカルな電車から地球規模へ一気に話を飛躍させてみましょう。私たちを取り巻く社会の様相はグローバル化の進展に伴ってますます複雑化し、時には激しい摩擦や対立が生じています。そのような刻々変化する現代社会の諸問題に対処するには複眼的なアプローチが必要です。

国際文化学研究科は、異文化共存を見据えた先端的な文化研究の推進を理念として掲げ、単一のディシプリンを越えた領域横断的な研究を積み重ねています。本研究科には2専攻、15のコースが設けられていますが、それは個別の専門領域を深く掘り下げながらも、そこに留まることなく、異分野の学問研究の養分を吸収しながら、従来にはないテーマや視点を探索し、これまで隠されて見えなかった問題群を発見するための配置です。

本研究科が国内外の大学や研究機関と連携して取り組んでいるプロジェクトに、「日欧亜におけるコミュニティの再生を目指す移住・多文化・福祉政策の研究拠点形成」（日本学術振興会の研究拠点形成事業 A.先端拠点形成型）があります。これは、人の移動により生ずる多文化化が地域コミュニティの分断をもたらしかねない現状を憂慮し、福祉の再分配に必要な連帯感の構築に必要な政策を提言するための事業であり、人文科学と社会科学の交差・融合による最先端かつ世界水準の研究成果を発信することを目指しています。

本研究科では多彩な専門と経験を有する教員・学生が自由闊達に意見を交わしながら研究を進めていく環境が整っています。海外からの留学生も多数おり、この研究科自体が地球全体の縮図であるといっても過言ではありません。グローバル化する世界で生じる問題の解決には多様なアクターに対する共感と想像力が不可欠です。この研究科に集う皆さんがそれぞれの専門的知識と知性を結集して、未来につながる新たな公共的価値の創造に取り組んで下さることを心から期待しています。

研究科長
西谷　拓哉

研究科の理念と目標 Our mission and aims

国際文化学研究科は、異文化共存を見据えた文化研究の先端的領域を開発し、人類文化を把握するための新たなパラダイムを構築することをその理念としています。

そしてそれを実現するために、以下の５つの研究目標を設けています。

（1）文化を複合体と捉え、異文化間の関係性を視座として文化研究を行う。
（2）複合体としての文化を、衝突、融合、交渉などの異文化間の相互作用という視座から、動態的に研究する。
（3）グローバル化する現代世界の文化変容を多角的に研究する。
（4）言語や情報に関わる先端的コミュニケーション研究の開発を行なう。
（5）中心 / 周縁、文明 / 未開、先進 / 後進などの一元的で単眼的なパラダイムから、多元的で複眼的なパラダイムへのシフトを実現し、現代世界の文化動態に則した研究方法を開拓する。

アドミッション・ポリシー Admission Policy

国際文化学研究科では、高い異文化理解能力と自在なコミュニケーション能力を有し、豊かな学識と創造的な研究能力を備えた人材を育成することを目指しています。

上記の教育研究上の目標をふまえ、本研究科が求めるのは次のような学生です。

前期課程
Master's Program

- 文化を複合体として捉え、異文化間の関係性を多角的に探究することに強い意欲を持ち、それを達成する基礎的な能力を有する学生
- 言語情報コミュニケーションの動態を深く理解し、現代のグローバル社会の諸課題に取り組むことに強い意欲を持ち、それを達成する基礎的な能力を有する学生
- 高い専門性の上に立った学際的研究を行うことに強い意欲を持ち、それを達成する基礎的な能力を有する学生

後期課程
Doctoral Program

- 複合体としての文化の構造と動態を究明し、文化研究の先端的な領域を主体的に開拓することに強い意欲を持ち、それを達成する基礎的な能力を有する学生
- 言語情報コミュニケーションの諸問題を探求し、グローバル化する現代世界を多角的に研究することに強い意欲を持ち、それを達成する基礎的な能力を有する学生
- 高度な専門性の上に立った領域横断的な研究を行うことに強い意欲を持ち、それを達成する基礎的な能力を有する学生

ディプロマ・ポリシー Diploma Policy

国際文化学研究科は、深い異文化理解能力と自在なコミュニケーション能力を有し、豊かな学識と創造的な研究能力を備えた人材を育成することを目指しています。この目的を達成するため、以下に示す方針に従って当該学位を授与します。

前期課程
Master's Program

本研究科に原則２年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格すること。全学のディプロマ・ポリシーに定める人間性・創造性・国際性・専門性の四つに加え、学生が修了までに身につけるべき能力を次のとおりとします。

- 文化が多様であること、それらの文化が相互に影響しながら変容するものであることを理解し、異文化間の関係性を多角的に探究することができる能力。
- 言語情報コミュニケーションの動態を深く理解し、現代のグローバル社会のさまざまな課題に取り組むことができる能力。
- 高い専門性の上に立った学際的研究を行うことができる能力。

後期課程
Doctoral Program

本研究科に原則３年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。全学のディプロマ・ポリシーに定める四つの能力に加え、学生が修了までに身につけるべき能力を次のとおりとします。

- 多様かつ相互に影響しながら変容する諸文化の構造と動態を究明し、文化研究の先端的な領域を主体的に開拓することができる能力。
- 言語情報コミュニケーションの諸課題を探求し、グローバル化する現代世界を多角的に研究することができる能力。
- 高度な専門性の上に立った領域横断的な研究を行うことができる能力。

目　次

国際文化学研究科への招待

アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー …… 1
研究科の構成・研究科の育成する人材 …… 2
博士前期課程・博士後期課程 …… 3

15 の多様な専門コース

日本学 …… 4-5
アジア・太平洋文化論 …… 6-7
ヨーロッパ・アメリカ文化論 …… 8-9
文化人類学 …… 10-11
比較文明・比較文化論 …… 12-13
国際関係・比較政治論 …… 14-15
モダニティ論 …… 16-17
先端社会論 …… 18-19
芸術文化論 …… 20-21
言語コミュニケーション …… 22-23
感性コミュニケーション …… 24-25
情報コミュニケーション …… 26-27
外国語教育システム論 …… 28-29
外国語教育コンテンツ論 …… 30-31
先端コミュニケーション論 …… 32
日本語教師養成サブコース …… 33

国際交流

留学案内 …… 34-35
国際文化学研究推進センター …… 36

充実した研究・教育サポート体制

研究サポート …… 37
就職と進学 …… 38-39
全学の研究支援施設・学生寮・奨学金 …… 40
研究会・研究誌の紹介 …… 41
論文題目 …… 42-43
教員一覧 …… 44-45

Invitation to the Graduate School of Intercultural Studies …… 46-49
15 Specialized Courses …… 50-57

国際文化学研究科への招待
INVITATION TO THE GRADUATE SCHOOL OF INTERCULTURAL STUDIES

研究科の構成　世界とかかわり、世界で生きるための 15 の専門コース

専攻と領域

現代社会の文化のあり方を比較考察し、文化間の対立・紛争といった現代的な課題に取り組むには、個別地域の文化及び異文化間の相互関係を考察すると同時に、グローバル化する世界の文化の動向それ自体を考察する能力を培うことが不可欠です。

そのため、国際文化学研究科では、個別地域文化研究を踏まえ、異文化間の相互作用のあり方や特質を多角的に解明する「文化相関専攻」と、グローバル化による文化の現代的位相を解明する「グローバル文化専攻」の２専攻を置いています。

「文化相関専攻」には、各地域固有の文化特性や文化の変容を学際的に研究する「地域文化系領域」、異文化の接触・対立・交流の実態を多角的に探求する「異文化コミュニケーション系領域」を置き、(1) 個別地域文化の理解、(2) 異文化間の関係性・相互作用の理解、(3) 異文化コミュニケーション能力の育成を目指します。

「グローバル文化専攻」には、グローバル化に伴う西洋近代原理の揺らぎの中にある、現代の社会的・文化的状況をトータルに研究する「現代文化システム系領域」、言語・非言語的コミュニケーション活動と多様な情報メディアの利用に関わる諸問題を探求する「言語情報コミュニケーション系領域」、外国語教育に関する先進的研究と当該分野の卓越した実践者の養成を目標とする「外国語教育系領域」、さらに、後期課程では、国際電気通信基礎技術研究所（ATR）との連携の下に、連携講座「先端コミュニケーション論」を置いています。そして、これらの領域を通して、(1) グローバル化による文化変容の解明と新たな公共文化の構築、(2) 先端的なグローバルコミュニケーションの開発、(3) グローバル化時代の外国語教育システムの開発を目指します。

専攻	領域	コース
文化相関 個別地域文化研究を踏まえ、異文化間の相互作用のあり方や特質を多角的に解明する	**地域文化系** 各地域固有の文化特性や文化の変容を学際的に研究する	日本学
		アジア・太平洋文化論
		ヨーロッパ・アメリカ文化論
	異文化コミュニケーション系 異文化の接触・対立・交流の実態を多角的に探求する	文化人類学
		比較文明・比較文化論
		国際関係・比較政治論
グローバル文化 グローバル化による文化の現代的位相を解明する	**現代文化システム系** グローバル化に伴う西洋近代原理の揺らぎの中にある、現代の社会的・文化的状況をトータルに研究する	モダニティ論
		先端社会論
		芸術文化論
	言語情報コミュニケーション系 言語・非言語的コミュニケーション活動と多様な情報メディアの利用に関わる諸問題を探求する	言語コミュニケーション
		感性コミュニケーション
		情報コミュニケーション
	外国語教育系 外国語教育に関する先進的研究と当該分野の卓越した実践者の養成を目標とする	外国語教育システム論
		外国語教育コンテンツ論
	連携講座（博士後期課程に設置）	先端コミュニケーション論

研究科の育成する人材　世界へ広がるキャリアパス

博士前期課程

文化相関専攻

―専門職として―

・国連、JICA 等国際機関の専門職
・日本文化の紹介・交流などを企画する各種団体職員・公務員
・博物館・美術館の文化プランナー
・高度な専門知識を備えた中学校・高等学校教員（英語系）
・地方自治体・企業における文化交流事業の企画立案者
・外資系・合弁企業の研修担当者
・文化活動・異文化理解を先導する地域 NPO リーダー

―実践対応力をもったビジネスプロとして―

・外資系・合弁企業社員
・商社等企業社員
・日本企業の海外進出要員

グローバル文化専攻

―専門職として―

・音楽・美術等の芸術に通じた文化政策専門職員、アートマネジャー
・ジェンダー・公共性等、変容する現代文化の諸問題に取り組むジャーナリスト、公務員
・高度な専門知識を備えた中学校・高等学校教員（英語系）
・語学教育系企業の社員・教員
・言語教育教材等の編集者
・留学生センター研究員・専門職員・アドバイザー
・日本語教員
・通訳・翻訳家
・言語系・IT 系企業研究所職員

―実践対応力をもったビジネスプロとして―

・ソフトウェア技術者
・システムエンジニア

博士後期課程

世界の「国際文化学研究」を推進する先進的研究者

―専門職として―

・国際機関 / 研究所研究員
・国公立 / 企業系研究所等研究員
・大学・短期大学・高等専門学校教員

取得できる学位

博士前期課程　修士（学術）
博士後期課程　博士（学術）

取得できる資格（博士前期課程）

中学校教諭専修免許状（英語）
高等学校教諭専修免許状（英語）

博士前期課程 ― 夢に応じた2つの「学び」の形 ―

国際社会のキーパーソンを育てる<キャリアアップ型>、時代をリードする新進研究者を育てる<研究者養成型>
― 入口から出口まで、目的に応じた多様なスタイル ―

	キャリアアップ型	研究者養成型
入試 （一般入試、社会人特別入試及び外国籍学生特別入試）	1.基礎科目 外国語、日本古典文、情報、日本語（外国籍学生特別入試のみ）から選択。ただしコースごとに選択可能な科目を定めているので、詳細は募集要項を参照のこと。 2.専門科目 3.口述試験	
カリキュラム	●キャリアアップのための高度な外国語能力･情報処理能力･プレゼンテーション能力を育成する演習科目 ●一方通行でないインタラクティブな少人数制「特殊講義」を中心に履修 ●所定の単位の修得と修了研究レポートの提出で修士号が取得可能	●指導教員による充実した個人指導（チュートリアル） ●研究者としての基礎学力を培う「高度専門演習」を中心に履修 ●後期課程の「特別演習」履修も可能 ●修士論文、または複数業績を組み合わせた「修士フォリオ」の提出
進路像	修士号を取得し、専門職として国際的に活躍する	後期課程入試を経て、後期課程に進学を希望する学生に対応。研究者や高度専門家としての道を歩む

２つの教育プログラム

博士前期課程にはキャリアアップ型プログラムと研究者養成型プログラムがあります。一般入試及び社会人特別入試志願者については、入学願書提出に際して、どちらかひとつを選択します。外国籍学生特別入試志願者については、入学後に、いずれかを選択します。

キャリアアップ型プログラム

前期課程修了後、就職を希望する学生に対応した教育プログラムです。幅広い専門的知識と実践的な応用能力の修得によって、キャリアの高度化を目指します。

特殊講義を中心とした所定単位の修得と、キャリアデザインに即した修了研究レポートの提出によって、修士号が取得できます。

研究者養成型プログラム

前期課程修了後、後期課程入試を経て、後期課程への進学を希望する学生に対応した教育プログラムです。

研究者や高度専門家の養成を目指したカリキュラムが提供されています。高度専門演習を中心とした所定単位の修得と修士論文（または修士フォリオ）の提出が修了要件になります。

その他

日本語教師養成サブコース（→ P.33）、ダブルディグリー・プログラム（→ P.35）があります。

アカデミック・スキル演習

各分野で研究を進めるうえで必要な方法論・技術などのアカデミック・スキルを効率的に修得することを学習目標とします。

- IT スキル実習
- アカデミック・コミュニケーション（英語）
- アカデミック・ライティング（英語）
- アカデミック・ライティング（日本語）
- 社会研究方法論
- フィールド調査法
- 統計・計量分析法

修士フォリオ

修士フォリオとは、修士論文に代えて提出できる、一つのテーマのもとでゆるやかに関連する複数の研究成果から構成されるものです。単一の論文という形式にとらわれず、従来は修士論文として認められなかった多様な研究成果作品・調査報告などがフォリオの一部として認められます。職業や職場との関連をふまえた実践的な研究が行いやすくなり、また複数回にわけて提出するため、計画的な執筆や調査が可能になります。

博士後期課程 ― 自立した研究者を育てる「学び」のスタイル ―

専門分野を深く究める<コースワーク型>
― ３年間で博士号を取得するための多様で柔軟なサポート ―

	コースワーク型
研究テーマ	コースの研究分野に即したテーマ
カリキュラム	個人研究
研究指導体制	指導教員が中心となりコース全教員がサポート
博士号取得のプロセス	＜１年次＞　コースの共同演習で構想を発表、学術論文の投稿、博士基礎論文の提出 ＜２年次＞　学術論文の投稿、学会発表、博士予備論文の提出 ＜３年次＞　毎月１回、部分草稿をコースの共同演習に提出、全教員から指導とサポートを受ける。博士論文の提出
期待される成果	個人の自由な発想と独創性を最大限に生かした学術的研究成果